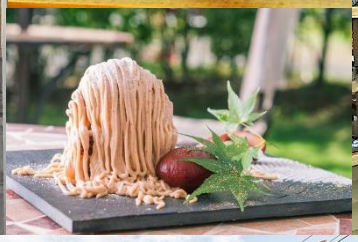
キラッと光る技術やユニークな取り組みで勝負する地域企業をご紹介します

令和元年度

元気企業だより

～がんばれおおむた企業！元気発進！！～



＜紹介企業＞

- ◆メガネの松永
- ◆信号電材株式会社
- ◆株式会社プランツ
- ◆デンカ株式会社大牟田工場
- ◆Matsuo Sangyo 株式会社

～補助金獲得、技術相談など、企業活動を支援します～

発行：公益財団法人 大牟田市地域活性化センター

ＴＥＬ：0944（56）1717
Email：info@ecosanc.or.jp
ＵＲＬ：http://www.ecosanc.or.jp/tiiki/

詳しくはHPで！→

元気企業だより 2019 Part1

メガネの松永 MATSUNAGA

“突き抜けたこだわり”でメガネの楽しさを伝える**メガネのスペシャリスト!!**

銀座通り商店街にあるちょっとオシャレなメガネ屋さん。しかしその中身は、ちょっとどころではないオリジナリティーとメガネ愛が溢れるお店でした。今回は、“突き抜けたこだわり”で大牟田から全国へメガネの楽しさを伝える「メガネの松永」常務取締役の松永匡弘さんにお話を伺いました。

楽しそうにメガネを語る松永さん

“嫌々”から“やりたい仕事”に！

創業は 1947 年。佐世保にいた祖母が、当時景気の良かった大牟田に移り開業したようです。メガネに対し“目が悪いから嫌々かける”というネガティブなイメージを持っていた私は、メガネ屋を継ぎたいとは思っていませんでした。しかし家業を継がないわけにはいかず、21 歳で東京のメガネ専門学校に進学した時、“ファッションとして楽しむ世界中のメガネ“を揃えるショップに出会ったのです。お店の方に話を聞き、たくさんの素敵なメガネに出会ううちに、”メガネって楽しい！“と思うようになり、メガネ屋が“やりたい仕事”に変わったのです。

大牟田に世界のメガネを届けたい！！

大牟田に戻り、世界の色々なブランドに連絡しますが、どこも相手にしてくれません。社内でも「そんな高いもの売れない」と反対されました。そんな時、私がメガネにハマるきっかけとなった「影郎デザインワークス」というブランドが、ある展示会に出ると聞き、来場権がない私は知り合いに頼んで半ば強引に会いに行きました。デザイナーさんにメガネに対する思いを話すと、「君 面白いね！」と意気投合！その後、このブランドを中心にブログなどでメガネの楽しさを発信し続けるうちに、“御社なら”と徐々に色々なブランドを扱わせてもらえるようになりました。県外からもお客様が来てくださるようになり、今では売り場の半分にこだわりのブランド商品を置けるようになりました。

自分の手でメガネを作りたい！！メイドイン大牟田！！

“大蛇山シリーズ”

メガネの魅力にとりつかれた私は、自分の手でメガネを作りたい！と思うようになりました。日本一のメガネの産地である福井県鯖江市に出向き、工場や材料屋さんに飛び込み、SNS で出会ったメガネ好きの仲間と情報交換をしながら、独学でひたすらメガネを作りました。

盛り上がる思いを抑えきれず、やり方も分からないうちから SNS で「メガネ職人になる！」と宣言し、半年程、仕事が終わった後に毎日毎日寝る間も惜しんでやりましたね。

実は大牟田はメガネに縁が深い町なんですよ。三井化学㈱さんではメガネレンズの素材が作られていて、世界シェアＮｏ.1 なんです！“石炭”をモチーフにして作っているメガネをはじめとした当社のオリジナルブランドには、三井化学㈱さんのレンズを使う！と決めています。

“石炭シリーズ”

“仕方なく” ではなく “楽しむ” メガネを♪♪

自分の理想のメガネを作れるよう「手作りメガネ教室」を開いています。初めての申込者はなんと京都の方でした。SNS を見て来て下さったようです。これまでに 300 人近い方にご参加いただきましたが、何度も参加してくださるお客様やオーダーしてくださるお客様も多く、皆さんがメガネを楽しんで下さっていることを、とても嬉しく思います。全く利益にはならないんですけどね(笑)

いろいろな人に買物の楽しみを♪♪

商店街の仲間と協力して、老人施設や街に買い物に来られない高齢者などが多い地域に出張販売をする「よかもん商店街」という活動を 10 年前に始めました。最初は業者団体だと敬遠されましたが、普段、人に頼むしかない買物弱者の方が“自分で選んで買物ができる”と喜んでいただき、今ではいろいろな所にお呼びいただき、年間 40 回以上開催しています。大牟田市の発展に少しでも寄与できればと、売上の一部を福祉事業などに寄付させていただいています。

これからやりたいこと

近視の強い方は、値段の高い薄型のメガネレンズを選んでおられると思います。薄型のレンズを使用する事は、もちろん有効な方法の１つですが、それでも思っていたほどレンズが薄く仕上がらず、まるで「牛乳瓶の底のようなレンズ」のメガネを使用されている方が沢山います。特に女性にとって、分厚いレンズのメガネは本当に大きな悩みです。実は、その方に「最適な大きさやバランス」のメガネフレームを使用すると、レンズの厚みはさらに大きく軽減できるのです！

オリジナルフレームを作れる技術を生かし、「強度近視」で悩んでいる方に少しでも喜んでいただけるメガネを作っていきたいです。

会社概要

HP はこちら

メガネの松永

住所：福岡県大牟田市
本町 1-5-20

TEL：0944-56-8855

MAIL：megane@msj.biglobe.ne.jp

元気企業だより 2019 Part 2

信号電材株式会社

“東京オリンピック”を契機に第一歩を踏み出した 信号電材株式会社!!

東京オリンピック（昭和３９年開催）が決まると、東京から地方へと交通網の整備が急ピッチで進められました。交通信号も警察官の手信号から信号灯器へ。この時、東京の信号工事の会社に勤めていた創業者の糸永 嶢氏はやがて独立し、上場大手信号灯器メーカー３社としのぎを削る凄まじい経営を強いられました。そのなかで、同社は日本の信号灯器の技術の進歩を牽引し、そして現在、信号灯器国内生産シェア５０％を誇る信号電材株式会社が、今回の元気企業です。

代表取締役社長の糸永 康平さんにお話を伺いました。

信号機材に取り組まれたキッカケと創業時の状況は？

この建物は、三池炭鉱の変電所であったものを、㈱サンデンが購入し、解体の危機から救い社屋として大切に守ってきたもの。2000 年に国の登録有形文化財（市の文化遺産）となり、信号電材㈱が新社屋として譲り受けた。

戦中憲兵だった父は、戦後戦犯となり、県境で下駄屋を営んでいました。しかし戦後の経済成長と共に靴が普及してくると店が立ちいかなくなり、東京で信号工事会社を経営していた親戚を頼り、家族を連れて移住します。東京オリンピックの２年前のことでした。父は仕事ができ、番頭として社長に頼られていたようですが、その社長が急逝され後継者とは反りが合わず、昭和 42 年に大牟田に帰って個人企業として独立したのです。しかしその直後、東京での無理が祟り生死をかけた大病に見舞われ長期の入院をすることになります。貯めていた資金は底をつき、母親が仕事に就いて一家を支えてくれました。復帰した父は再び事業に取組み、多くの協力者に恵まれ、昭和 47 年（当時 48 歳）に信号電材株式会社を創立しました。

技術的なターニングポイントは？

糸永社長のご子息であるデザイナーの糸永昇平氏がデザインした社内。フリーアドレスの導入など画期的なワークスタイルを実現した。

いくつかの節目があります。創業当初、九州にはまだ交通信号機のある交差点が少なく工事業としては設立できなかったため、ものづくりから始めました。接続ボックス(端子箱等)に始まり、信号用ポール(柱)も生産していましたが、ある時鹿児島県警から信号灯器の錆の問題を持ちかけられました。離島や海辺にある信号灯器がすぐに錆びてしまって困ると言うのです。実はこの業界には上場大手 3 社があるのですが、信号灯器の長寿命化には当時あまり熱心ではなかったようで、当社に話が来たのではないかと思っています。　そこで撤去品の鉄製信号灯器を分解し、信号灯器のケーシングに亜鉛メッキと塗装を施す再生処理をした事に始まり、その後も開発を進め、当時としては画期的だったアルミダイカスト製の車輌用信号灯器の開発に成功しました。当時はまだランプユニットは生産していませんでしたので、各メーカーの OEM（他社ブランド製）としてランプユニットを供給してもらって信号灯器として製品化することができました。当時これは大きな投資でした。しかし、開発に関わっていただいた九州南部の警察本部の担当者からは絶賛していただきましたが、この製品はあくまで他社ブランドであり、この時点ではまだ、我々の思うような生産には繋がらなかったのです。

次に評価されたのが、西陽による擬似点灯防止型信号灯器の開発でした。実は、当時の電球式信号灯器は、西陽があたると内部の反射鏡に太陽光が反射し全点灯して見え、どの信号が点灯しているかわからなくなり、誤認による死亡事故が発生するという問題が起こっており、メーカー各社に対策灯器の開発要請が出されていました。父は、地域の発明家の方とも交流しつつ多眼レンズ（球体レンズを集合ボード化させたレンズ）を開発し、当時の上場メーカーを凌ぐ擬似点灯防止型車輌用信号灯器開発に成功。警視庁の品評会で当社が選ばれ、東京市場を 3 年間独占生産しました。その後、この事がきっかけとなり、当社は信号灯器メーカーとして認知され、全国へと販売するメーカーとなっていきました。

また現在は、LED 灯器になっていますが、当社は LED 灯器開発にも他社から知られることなく開発に着手し、台湾との合弁会社を設立し量産化を進めるなど、大手メーカーに負けないコストを手に入れ、海外販売を目指した海外展示会などの参加も積極的に行う事で、世界の技術と市場を知るきっかけとなりました。

このようにアルミ化、西陽対応、LED 化の信号灯器開発が大きなターニングポイントと言えるでしょう。

“抱負”

我が社は、2022 年に創業 50 周年を迎えます。

道路交通インフラの端末設備業界において激動の半世紀を生き抜いてきました。

今、5G インフラの普及に交通信号設備を活用して行く事が進められようとしています。我々は、今後も“ものづくり会社”としてインフラ端末機器へのこだわりを極めつつ、安全安心の町づくりをプランする“コトづくり”にも挑戦して行きたいと考えています。

会社概要

HP はこちら

信号電材㈱

住所：福岡県大牟田市
新港町１番２９号

TEL：0944-56-8282

元気企業だより 2019 Part3

Pâtisserie Plantes パティスリー プランツ 株式会社プランツ

“大牟田の魅力を伝えたい！”～素材にこだわった洋菓子づくり

西鉄銀水駅からほど近く、緑の植栽で囲まれたおしゃれな洋菓子店があります。今回は、2016 年 4 月にオープンした「パティスリープランツ」にお邪魔し、オーナーの末吉辰隆（しんりゅう）さんにお話を伺いました。イートインやランチをいただけるカフェコーナがあり、天気のいい日には、木漏れ日の中ウッドデッキで安らぎの時間を過ごすことができる癒しのお店です。

名前の由来は？

“パティスリー”はフランス語で“洋菓子店”、“プランツ”は“植物”。店の所在地が「草木＝植物」であることにちなんで「草木の洋菓子店」という意味でつけました。また、地域にとって植物のようにあたたかい癒しの存在となり、ここに根を張って成長したいという思いを込めています。

「女の子にモテたい」から、「お客様に喜んでもらい」へ

お菓子作りのきっかけは、小学 5・6 年生の頃、女子にモテたくてプレゼントするため。とても喜んでくれたことが嬉しくて、その思いがこの仕事を選ぶことにつながりました。市内の洋菓子店で修業を始め、21 歳の時に大阪の専門学校に進学、その後、福岡や千葉、神戸などのお店で技術や品物を見る目、経営を鍛えられました。また、台湾で日本の洋菓子や食文化を広める活動に携わったこともあり、日本の食文化の良さ、大牟田の良さにも気付きました。27 歳の時に大牟田に戻り、28 歳でこの店を開業することができました。　今でも、「モテたい」という根本は変わりません。そうでないとカッコのいいものは作れませんから。ただ「女性に」ではなく「お客様に」に変わりましたね（笑）。お菓子を見た時のキレイ！かわいい！の声が純粋に嬉しくて、創作の原動力となっています。

お客様目線でのお菓子作りがモットー

夏に人気のかき氷

“お客様が本当に求めるものを提供したい”という思いから「お客様目線」でのお菓子作りをモットーにしています。スタッフだけでなく家族や友人、リピーターで来ていただいたお客様などに率直な意見を聞き、真摯に受け止め、試行錯誤しながら満足いただけるものを提供できるように努めています。

イチオシのモンブラン

ケーキはあまいけど、経営はそんなにあまくなかった!!

店を構えて 3 年半が経ちます。もっと多くのお客様に来ていただけると思っていましたが、現実は厳しいですね。良いものを届けるため、フルーツ等は地元の生産者に直接出向き、良質なものを厳選します。時には素材へのこだわりから価格が高くなり、お客様に敬遠される場合があります。素材を変え価格を下げることは簡単です。でも、私は「ホンモノをお届けすること」を大切にしたい！！そこで、素材の素晴らしさや当店のこだわりを分かっていただけるようホームページや SNS など情報発信に力を入れたところ、徐々に当店のファンになって下さる方が増えてきました。もちろん、その上でできるだけお安く提供する努力は欠かしません。

大牟田産
シャインマスカット

若い世代に大牟田の魅力に気づいてもらいたい!!

昨年、市役所の企画で、高校生とぶどうの収穫からパフェづくりまでを一緒にやりました。大牟田にも質の高い果物や野菜をつくる生産者がありますが、自分も大牟田を出て、初めて地元の良さを発見した一人です。高校生のみんなにも、外に出て行っても、ふるさとにはこんなに魅力ある人や、良いモノがたくさんあることを覚えておいて欲しい。そのきっかけづくりとなるような活動ができればと考えています。

“抱負”

これからも、「嬉しい・楽しい・おもしろい」に積極的に挑戦し、たくさんのお客様へ”幸せのお手伝い”が出来るよう進んでまいります。

市外からでも足を延ばしていただける店づくり、そしてお菓子作りという仕事を基にたくさんの魅力を発信していきたいと思っております。

会社概要

HP はこちら

㈱プランツ

住所：福岡県大牟田市草木 106-30

TEL：0944-88-8868

元気企業だより 2019 Part 4

Denka デンカ株式会社 大牟田工場

創業以来 100 年の技術革新で、様々な先端分野に貢献し続けるデンカ㈱!!

今、自動車業界は電気自動車の普及など、「100 年に一度」といわれる大変革が起こっています。今回紹介するデンカ㈱大牟田工場は、開設 103 年を経る技術革新の歴史を通して開発した素材で、電気自動車のみならず、スマートフォン等の IT 機器、インフラ工事等の様々な分野に貢献しています。ヤフオクドームの約９倍の敷地に１,５００名ほど（関連会社を含む）が勤務し、大牟田の産業界を支えるデンカ㈱は、今まさに世界の産業界を支える企業へと発展しています。

事務部総務課担当課長の関 英樹さんにお話を伺いました。

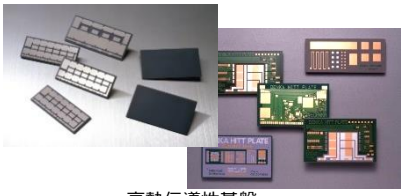
創業の経緯などを教えて下さい

デンカ㈱初の大牟田工場は、大正５年（1916 年）に三池の石炭、広い工場用地、三井の水力自家発電からの電力を活用し、カーバイドと肥料を作った事が始まりです。

カーバイドは石灰石とコークスを電気炉で反応させて製造されます。このカーバイドに窒素ガスを化合したものが石灰窒素で、農薬肥料として土壌改良に用いられます。また、カーバイドは水と反応してアセチレンガスを発生します。これを熱分解して製造するのがデンカブラックで、マンガン電池等の性能アップなどに使われてきました。

様々な新分野に進出しておられるようですが？

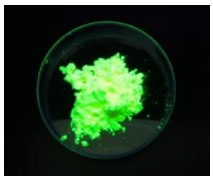
デンカブラック



高熱伝導性基盤

これまで無機化学で培った技術を生かし、近年は電子材料分野への展開を進めています。デンカブラックは高電気・高熱伝導機能材で、現在はスマートフォンや電気自動車等に用いられるリチウム電池の正極材、産業用ケーブル、タイヤ等ゴムの補強材などに使用されています。当社で開発された無機化学・セラミック工業製品の窒化物セラミックスは高い電気絶縁性と優れた放熱性を有しており、各種産業分野のニーズに応えるユニークな無機素材や先端のセラミック成形加工品、電子・機能材料として世の中に送り出しています。近年は、この絶縁性、放熱性を生かしたセラミック製の回路基板の製造も行っています。これは高電圧、大電流に対応できるパワーモジュールとして、電気自動車や国内外の新幹線をはじめとする高速鉄道車輌の制動用基板として使われています。

その他の高機能材料として、デンカ球状シリカ・球状アルミナや蛍光体等も製造しています。このデンカ球状シリカ・球状アルミナは半導体部材や高放熱部材として、先に記したデンカブラックとともに世界でもトップシェアを占める国際商品となっています。



サイアロン蛍光体

デンカ㈱の高度なセラミック焼成技術で開発した緑色や赤色の蛍光体は、従来品の問題点であった耐高湿高温性、耐久性を大幅に改善し、色調なども高い評価を受け、液晶 TV、スマートフォン、自動車の LED ライト、室内外照明等、幅広い分野で採用されています。特に近年４Ｋテレビの登場により、高輝度化を実現した当社の蛍光体への注目度は上がっています。

当社の機能材料、基板、蛍光体は自動車や IT 産業の未来を変えていく大きな力になると信じています。

新総合事務所内の展示

CSR（企業の社会的責任）活動を推進されていると聞いておりますが？

子供向けの化学実験の出張教室や工場見学、学生のインターンシップの受け入れの他、地域の皆さんと一緒に工場周辺の清掃活動を行っています。また、大きな災害に対しては、会社として支援を実施しています。例えば、熊本地震や九州北部豪雨の際には、ボランティア派遣や物資の提供などを行いました。

“抱負”

2020 年２月末には、業務プロセス改革や働き方改革による生産性の向上を推進するための大牟田工場新総合事務所“Omuta Innovation Hub”が落成しました。

今後も当大牟田工場は、弊社の発展を担う電子材料事業のスペシャリティー製品の開発・製造拠点として、環境負荷に考慮し、安全で信頼性の高い製品を供給し続け、社会に貢献する事業所でありたいと考えます。

HP はこちら

会社概要

デンカ㈱大牟田工場
住所：福岡県大牟田市
新開町 1
TEL：0944-52-1055

元気企業だより 2019 Part 5

Matsuo Sangyo 株式会社

“祖父の思い”を引き継ぎ、大きく羽ばたかせた 注目の３代目社長！！

スーパーや携帯ショップ、雑貨店など、今やあらゆるところで目にする“万引き防止装置”。

実は、この万引き防止装置を日本で初めて開発した会社が大牟田にあるのです！有線式防犯装置では国内シェア約 90%を誇り、この数年で売上を飛躍的に伸ばしています。

しかし、その道のりは平坦なものではありませんでした。波乱万丈な人生を送った創業者の思いを引き継ぎ、会社の危機的状況を乗り越え、大きな飛躍を遂げた３代目社長は、「日経新聞電子版」等に取り上げられ、今や全国から注目を集めています。

Matsuo Sangyo 株式会社 代表取締役社長の渋谷 翔一郎 さんにお話を伺いました。

防犯機器のパイオニアということですが、創業の経緯を教えてください

創業者である祖父は、大牟田で警備会社を営んでいましたが、事業がうまくいかず泣く泣く大牟田を離れ大阪に移りました。一からやり直そうと模索する中、新聞で「万引きが多発し小売業者が困っている」という記事を目にします。“コレだ！”と思った祖父は、当時アメリカで主流だった無線の防犯ゲートを輸入し、日本で初めて大型商業施設に採用されます。しかし、当時のゲートは性能が低く頻繁に誤作動が起きたため、ただでさえお客様を疑う行為が敬遠される日本では、普及どころか返品される始末。そこで、“無線がダメなら有線だ！”と 1979 年 日本初の有線式盗難防止装置「ロスコン」を開発したのが当社の始まりです。悔しい思いをした大牟田で、絶対に成功する！という思いから、1988 年当市に本社を構えました。

ロスコン

その後は順調だったのですか？

私が入社したのは 23 歳。その頃当社は 7 期連続の赤字で債務超過に売上不振と、危機的状況でした。実は銀行から融資を受ける最低条件が「後継者がいること」だったのです。当時私は、お好み焼き屋（しぶちん）を営んでおり、防犯装置のことも会社経営も全くの無知。大変厳しい状況でしたが、幼い頃から祖父の苦労を見てきた私には、逃げるという選択肢はありませんでした。どうにかしたい！という思いだけで副社長として入社しました。

成功への道のり～強い思いが２つの出逢いを引き寄せる

★再スタートを可能にした一つ目の出逢い★

入社して、まずしなければならなかったことは資金繰りの改善。どの銀行も相手にしてくれない中、どうにか日本政策金融公庫の方に会っていただけることになり、何も分からない私は、“無知なことも包み隠さず自分の言葉で伝えよう！“と心を決め、祖父の思いと、それを引き継ぎ何とか社員を守りたい！という私の思いを伝えました。すると、最初は融資できないと言っていた担当者が「あなたの若さと情熱を本部に伝え、私が何とかする！」と、強力に支援してくださったのです。おかげで毎月の返済を 7 割も減らすことができ、1 年で赤字を解消。この一つ目の出逢いのおかげで、どうにか再スタートをきることができました。担当者の方には心から感謝しています。

★飛躍への二つ目の出逢い★

併せて約 35%の経費削減を実現し自信を付けた私は、24 歳の時社長に就任、“5 年で 15 倍”という売上目標を立てました。しかし、製品が「ロスコン」に限られていたため大幅に売り上げを伸ばすことができず、新製品開発などを模索している時、当社と強い信頼関係にあった大型量販店の方から、アメリカの防犯システム企業「InVue 社」の代理店契約の話を頂きます。通常、メーカー同士で代理店契約を結ぶことは、情報保護の観点などから大変難しいのですが、当社の信頼と熱量を買ってくれた InVue 社は、ぜひ契約を！と言ってくれたのです。多彩な商品を扱えるようになったことで売上は一気に 3 倍に伸び、また最も大きな収穫として、アメリカビジネスの手法や徹底した顧客第一主義を学ぶことができ、この二つ目の出逢いが当社を大きな飛躍へ導いてくれました。私が入社した頃は暗い雰囲気だった社員たちも、3 年経った今では一枚岩となり精いっぱい頑張ってくれています。

“抱負”

未だ若輩者の私ですが、着々と成功体験を積み上げ個人、企業ともに急成長中です。5 年で目標の 15 倍の売上目標を必ず達成し、その後大牟田市を代表する企業になるだけでなく、ひいては“日本を代表する企業 Matsuo Sangyo”として世界を獲りに行きます！！

HP はこちら

会社概要

Matsuo Sangyo㈱

住所：福岡県大牟田市
新勝立町 1 丁目 48-1

TEL：0944-51-0360